

福音の園だより

【第二十五号 二〇〇七年 一月 五日発行】

350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一
平成十八年度「高齢者雇用優良事業所 協会会長賞」受賞

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉事務局

☎ 049・230・1111

FAX 049・230・1112

ご家族の声

笑顔を見せてくれるおばあちゃん

五年前頃、ある日家族がおばあちゃんの異変に気付きました。本を調べたところ、認知症の可能性があるとので早速病院へ行きました。診断の結果は正常でした。しかしその後、認知症の症状が段々とひどくなり、自宅では介護が難しくなってきました。結局長期入院となり、よく家族でお見舞いに行きましたが、暗いイメージの病院で、元気のない姿のおばあちゃんを見ると本当に辛い思いでいっぱいでした。どこか安心しておばあちゃんが元気に過ごせる所はないのかと探していた頃、「福音の園」がオープンするとの話しを聞き、とても環境が整っていることとおばあちゃんの入居を決めました。

「福音の園」にお世話になってから二年程が経ちました。おばあちゃんの健康状態はどんどん良くなり、顔色も良く、私たちに会う度にいつも笑顔を見せてくれます。おばあちゃんの嬉しそうな顔を見ると私たちもとても嬉しく思います。皆様に本当に心から感謝しております。(S・K)

新年度を迎えるにあたって

「失敗学」に学ぶ・健全な職場作りを目指して

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳
ご利用者に対する当園運営方針の一つ、『画一的な支援の押し付けにならないように、お一人ひとりの「生活作り」のお手伝いをします』は、お世話する側、共に働くスタッフに対しては『管理者による強制や押し付けにならないように、健全な職場作りを行ないます』と言える。

私は、『リスクマネージメント』として、健全な職場作りを目指す時、ミスや失敗における言い訳の効用を大切にするように心掛けています。以下の質問は、その健全さのチェック項目である。

▼あなたの職場の失敗・言い訳許容度チェック▲
それぞれの項目について、○△×を入れてみて下さい。○が多いほど、失敗許容度が高い組織といえます。○が3つ以下なら要注意。言い訳を許さない組織は失敗から学ぶことができません。

- 一、失敗には厳しいが、失敗を意識してびくびくして仕事を
するようになることはない () ()
- 二、失敗してもいざと言う時は、フォローしてもらえない安
心感がある () ()
- 三、失敗しても頭ごなしに叱責されることはあまりない
() ()
- 四、失敗した時、なぜ失敗したかの言い訳に耳を傾けてく
れる () ()
- 五、失敗から学ぶ態勢が組織の中にある () ()
- 六、言い訳を口にできる雰囲気がある () ()
- 七、失敗の記録が公開されている () ()
- 八、失敗が発生すると、それについてのミーティング

のようなものが開かれる () ()

〔出典・「リスクマネジメントTODAY vol.1:39」〕

私たちの職場は、変わりながら一歩づつ前進してきた。前進のきっかけは、トラブルや事故、不具合等である。その都度「事故・ひやりハット 検討・報告書」で、改善・工夫に努めてきた。

この検討・報告書の目的は、①失敗隠しを防ぐー失敗や失敗しそうなになった体験をオープンに出来る雰囲気作り ②原因分析をするー思い込みを排除して様々な可能性を探る ③情報の共有ー当事者と一緒になってあれこれ考えることは、自分の身に引きつけて失敗情報を理解し、自らのスキル(介護技術)向上にする効果となる ④防止策の共有ー次の失敗を未然に防ぐ対策を全員が共有できる

「言い訳を封じ込める組織は危ない」と言われる。「言い訳は宝の山」ー問題表出のチャンスを見逃さず、スタッフのスキル向上を目指したい。

「罰や怖れ、強制によつて生み出されるよい行動」というものは、一人の人間である子供の個人的な生にとっては何の意味もないことであり、社会にとつても意味のないことである。」

ペーター・ペーターセン(イエナプラン教育の創始者)

御礼

リンリン T・K様(静岡県焼津市)
リンリン A・I様(長野県松本市)

新年おめでとう!!!

迎えました二〇〇七年も、確かな援助技術に基づいた「優しさ」と、福音に基づいた「希望」をお届けできるように専心してまいります。

グループホーム 福音の園・川越 職員一同